

令和6年度 港湾局 運営方針

I 基本目標

横浜港は「国際競争力のある港」、「観光と賑わいの港」、「安全・安心で環境にやさしい港」を3つの柱とし、横浜経済の活性化と市民生活を豊かにする総合港湾づくりを目指します。多くの関係機関や民間事業者と連携しながら、我が国を代表する国際貿易港として、港湾機能の強化と港の賑わい創出に取り組むとともに、カーボンニュートラルポートの形成やDXの導入等、将来を担う重要な施策を着実に推進していきます。

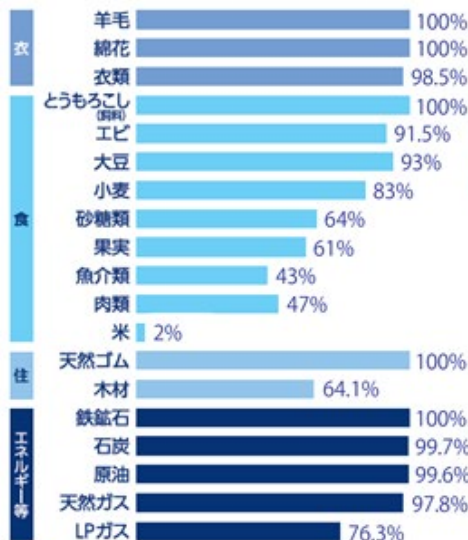
II 基本戦略の実現に向けた考え方

我が国の貿易量の約99.6%は港を経由して運ばれており、横浜港の経済波及効果は市内の所得・雇用の約3割と関わっています。横浜港は、市民生活を支える無くてはならない都市インフラであり、中期計画に掲げられたテーマ「生産年齢人口流入による経済活性化」「まちの魅力・ブランド力向上」「都市の持続可能性」に大きく貢献し、基本戦略「子育てしやすいまち 次世代を共に育むまち ヨコハマ」を力強く支えていきます。

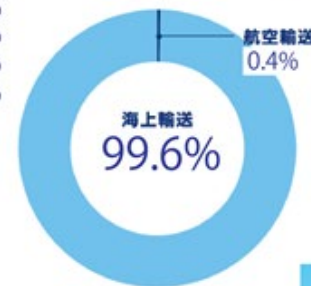


港の担う役割

衣食住に占める輸入の割合



貿易に占める海上輸送の割合 (トン数ベース)



我が国貿易量の99.6%は海上輸送であり、横浜港の定期航路におけるコンテナ化率は89.2%となっています。
(2022年 横浜港統計年報)

出典:SHIPPING NOW 2023-2024 (一般社団法人日本船主協会)



船名:エネルギーナビゲーター号
出典:東京エルエヌジータンカー株式会社



コンテナ船 MSC ISABELLA

Ⅲ 目標達成に向けた施策

1 国際競争力のある港

「国際コンテナ戦略港湾」として、急速に進展する船舶の大型化に対応し、基幹航路の維持・拡大を図るため、「集貨」「創貨」「競争力強化」の3つの施策を展開します。①新本牧ふ頭の整備を引き続き推進するとともに、②南本牧ふ頭MC 1～4のコンテナターミナルの一体運用の推進と背後地5-1ブロックの整備、③本牧ふ頭D5コンテナターミナルの再整備や④A突堤ロジスティクス拠点の形成等を始めとする本牧ふ頭再編強化等、コンテナ取扱機能の強化に取り組めます。また、東日本最大の自動車取扱拠点である大黒ふ頭では、世界的な脱炭素化の潮流を踏まえ、民間事業者等と連携しながら、⑤電気自動車（EV）の輸出入拠点としての機能強化も進めます。

さらに、民間事業者とともに、物流の様々な分野においてDXを導入し、生産性の向上、快適な労働環境に向けた改善等を推進します。



【南本牧ふ頭に着岸する世界最大級の超大型コンテナ船】



【新本牧ふ頭整備イメージ模型】

2 観光と賑わいの港

安全・快適なクルーズ船の受入れを行うとともに、観光により市内経済を活性化するため、みなとみらい21地区等において、臨港パーク先端部の整備、歩行者の回遊性向上等に取り組めます。⑥臨港パーク先端部では、シンボリックな展望ゾーン、水上交通の拠点となる栈橋、CO₂を吸収する「ブルーカーボン」としての機能も担う藻場・浅場、人工海浜等の整備を行います。また、⑦臨港パークとパシフィコ横浜との接続デッキの整備を進めます。さらに、水辺からの眺望を楽しみながら移動できる水上交通の充実に取り組めます。船齢94年を迎えた国指定の重要文化財である⑧帆船日本丸については、マストや船体の補修を行います。

⑨山下ふ頭再開発は、これまでいただいた市民の皆様のご意見や事業者の皆様のご提案を踏まえ、引き続き地域の関係者、学識者等から構成される検討委員会を開催し、新たな事業計画の策定に向けた検討を進めます。



【横浜港で発着を行うクルーズ船】

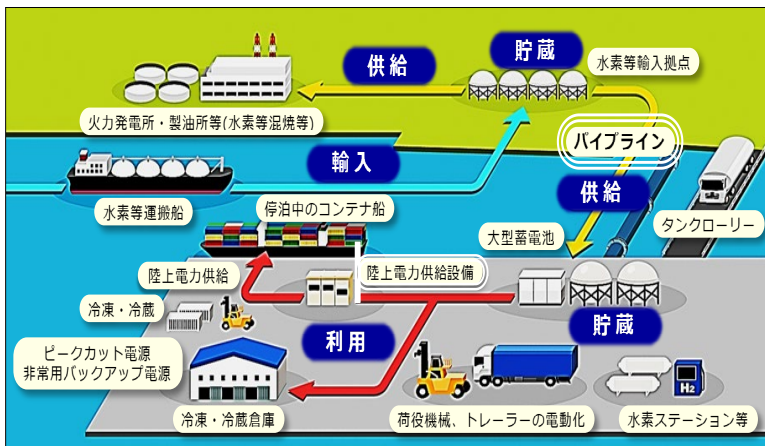


【臨港パーク整備イメージ図】

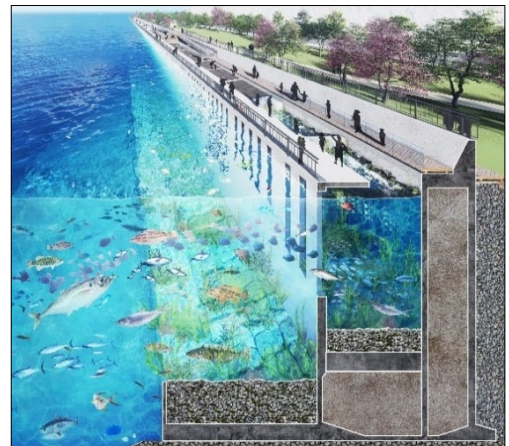
3 安全・安心で環境にやさしい港 ～カーボンニュートラルポートの形成～

2050年の脱炭素社会の実現を目指し、国、民間事業者等と連携しながら、カーボンニュートラルポートの形成に向けて取り組みます。GX投資の導入に向けて、臨海部において国や民間事業者・自治体間の連携により、水素等次世代エネルギーの輸入・供給大規模拠点の形成に取り組むとともに、停泊中のクルーズ船から排出されるCO₂を削減する⑩陸上電力供給設備の整備検討等、埠頭における脱炭素化を推進します。また、豊かな海づくり事業として、①新本牧ふ頭における生物共生型護岸の整備、⑥臨港パークにおける藻場・浅場の形成、市民に開かれた漁港の改修等の取組を進めます。

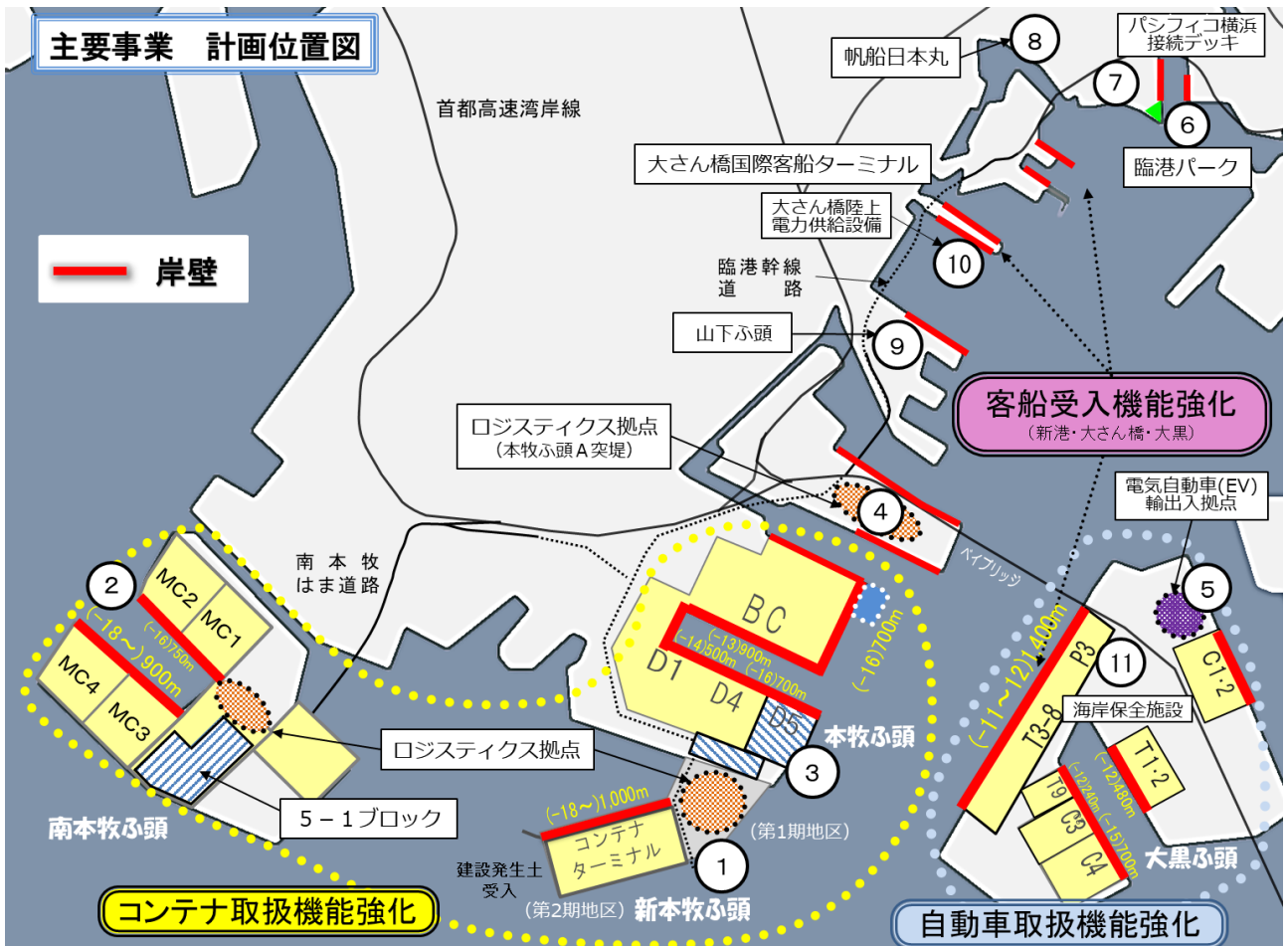
防災力の向上に向け、③本牧ふ頭D5コンテナターミナルなどにおいて、耐震強化岸壁等の整備を進めるとともに、百数十年に一回の頻度で発生する防護レベルの津波や高潮、高波からの被害を防ぐため、大黒ふ頭地区において護岸の嵩上げを基本とした⑪海岸保全施設の整備等を進めます。また、港湾施設の計画的な点検や修繕・改良工事を実施し、施設の長寿命化を図ります。さらに、感染症や特定外来生物への対応を含む水際の保安対策に着実に取り組むとともに、港湾の働きやすい環境の整備を行います。



【臨海部における水素等サプライチェーン構築イメージ】



【生物共生型護岸のイメージ】



IV 施策体系

基本目標を実現するために以下の施策・事業に取り組みます。
(各施策・事業に係る中期計画における政策・施策番号を右記に表記しています)

1 国際競争力のある港 ★ 令和6年度新規拡充事業

| 主要施策 | 主な事業 | 政策・施策番号 |
|---------------|------------------------------|--------------|
| 1 コンテナ取扱機能強化 | 新本牧ふ頭の整備 | 31-6, 37-2 |
| | ★ 南本牧ふ頭コンテナターミナル等の整備 | 37-2・3, 38-1 |
| | ★ 本牧ふ頭の再編強化（D5コンテナターミナルの再整備） | 33-3, 37-2 |
| 2 自動車貨物取扱機能強化 | 自動車貨物取扱機能強化 | 37-5, 38-1 |
| 3 港湾のデジタル化の推進 | 港湾情報システム改修等による利便性・機能性の向上 | 37-1・3 |
| | ★ 横浜港港湾統計管理システムの改修・運用 | 37 |

2 観光と賑わいの港

| 主要施策 | 主な事業 | 政策・施策番号 |
|---------------------------|------------------------------|--------------|
| 1 安全・快適なクルーズ船の受入れと市内観光の促進 | ★ 客船ターミナルの運営等 | 29-6, 37-3・4 |
| | 客船寄港促進事業 | 29-6, 37-3 |
| 2 賑わいのある港 | ★ 臨港パーク先端部等の整備 | 29-6, 37-3・4 |
| | ★ 水辺からの眺望を楽しみながら移動できる水上交通の充実 | 29-6, 37-3・4 |
| | ★ 赤レンガパーク改修事業 | 37-3 |
| | 賑わい施設等の改修（帆船日本丸の修繕） | 29-6, 37-3 |
| 3 山下ふ頭の再開発 | 新たな事業計画策定に向けた検討等 | 29-5 |
| | 山下ふ頭用地の造成・暫定活用等 | 29-5 |

3 安全・安心で環境にやさしい港

| 主要施策 | 主な事業 | 政策・施策番号 |
|--------------------|----------------------|----------------------|
| 1 カーボンニュートラルポートの形成 | ★ 臨海部の脱炭素化に向けた取組等 | 18-1, 37-4 |
| | ★ 埠頭における脱炭素化の推進 | 18-1, 37-4 |
| | ★ 豊かな海づくり | 18-1, 31-6, 37-2・3・4 |
| 2 安全で安心な港づくり | ★ 耐震強化岸壁等の整備 | 33-3, 37-2 |
| | 海岸保全施設の整備 | 34-1, 37-5 |
| | 港湾施設等の維持保全 | 37-2・3, 38-1 |
| | 保安対策（特定外来生物・SOLAS対策） | 37-3, 38-1 |
| | ★ 働きやすい港湾の環境整備 | 38-1 |

【参考】中期計画における政策・施策（抜粋）

| 政策 | 施策 |
|----------------------|--------------------------------|
| 18 脱炭素社会の推進 | 1 脱炭素化と市内経済の持続的な成長の促進 |
| 29 活力ある都心部・臨海部のまちづくり | 5 山下ふ頭再開発の推進 |
| | 6 回遊性の向上と多様な主体の連携によるにぎわいづくりの推進 |
| 31 自然豊かな都市環境の充実 | 6 良好な水環境の創出、多様な生き物を育む場づくり |
| 33 地震に強い都市づくり | 3 都市インフラ耐震化の推進 |
| 34 風水害に強い都市づくり | 1 氾濫をできるだけ防ぐための対策の推進 |
| 37 国際競争力のある総合港湾づくり | 1 デジタル技術の活用等による港湾機能の向上 |
| | 2 ふ頭機能の再編・強化の推進 |
| | 3 クルーズ船の受入と環境整備 |
| | 4 カーボンニュートラルポートの形成 |
| | 5 海岸保全施設の整備 |
| 38 公共施設の計画的・効果的な保全更新 | 1 都市インフラの着実な保全更新の推進 |

V 目標達成に向けた組織運営

「心身ともに健康でいきいきと働ける職場づくり」を組織運営の基本とし、全職員が「市民目線」「スピード感」「全体最適」の視点を持って「創造と転換」を図り、着実に事務・事業を推進します。

1 公民一体となった強固な連携のもと、「全体最適」の視点から事務・事業に取り組む

- ① 職場内はもとより、局内各課間においても横断的に活発なコミュニケーションを図るとともに、関係区局との連携を強化します。
- ② 国や外郭団体・関係団体、各指定管理者と連携を強化し、効率的に事業を推進します。
- ③ 港湾関係事業者、船会社、荷主企業等、各事業者との連携を強化し、それぞれのニーズに合ったサービスを提供します。

2 知識・知恵を出し合い効率的・効果的な事務・事業の推進

- ① 自由闊達な議論やきめ細かい情報共有を通じて、「全体最適」の観点から事務・事業の「創造と転換」を図り、歳出改革を進めます。
- ② 事務・事業の推進にあたっては、職場内で常に業務の進捗状況や課題を共有しながら、「市民目線」「スピード感」を持って取り組みます。
- ③ 会議や打ち合わせ、資料作成など、通常業務においても、業務の見直しやデジタル技術の活用等により常に効率性を高めます。

3 職員の満足度を高める職場づくり

- ① 責任職は「職員が満足して仕事ができる環境を作り出すことが重要」との認識を常に持ってマネジメントに取り組み、職員のモチベーション向上を図ります。
- ② ワークライフバランスを推進するため、超過勤務縮減や休暇取得促進のみならず、誰もが各種制度を活用できるよう、職員同士の信頼関係の醸成を図ります。
- ③ 責任職は常に職員一人ひとりに向き合い、人材育成やチャレンジする職員の後押しに丁寧に対応します。

「GREEN×EXPO 2027」の成功に向けた機運醸成の取組

「GREEN×EXPO 2027」の成功に向けて、市民利用施設の利用者やクルーズ船の乗下船客、来街者などの皆様に対し機運醸成を図ります。



○ 市民利用施設等を活用したPR

客船ターミナルやスカイウォーク、海づくり施設や横浜みなと博物館などの市民利用施設、臨港パークなどの港湾緑地をはじめ、港湾局が所管する施設において、ポスターの掲示、パンフレットの配架等を行います。

○ 集客イベントを活用したPR

港湾施設でのイベント主催者等に対し、PRや告知協力を依頼します。

○ 公共工事におけるPR

本市発注工事における工事関係標識等の掲示にあわせて、工事用フェンスにポスターを掲示します。



【スカイウォークのポスター掲示・パンフレット配架】

【工事用フェンスのポスター】